

西山スマイル

2022.4-2025.5

Vol.2

西山スマイル Vol. 2
発行日：2026 年 9 月　第 1 刷
発行者：西山病院グループ　医療法人社団一穂会
https://www.nishiyama.or.jp/

©2026 Nishiyama Hospital Group

2026.9.2000

毎日がドラマチック

人と人がふれあうとき、
感動が生まれる。
それは、何気ない日常の中で起こる。

人生の先輩と、長く、深くかかわり、共に過ごす。
その人の人生にふれる、その人の優しさにふれる。
私たちは、この仕事が好きです。

西山病院グループ　医療法人社団一穂会
理事長　渡邊　大児



西山スマイル

西山スマイルは、西山病院グループの職員が日常の中で出会った、ちょっと感動するお話を一冊の本として編集したものです。
本書では、Ｖｏｌ・１に続き、新たなエピソードを収録しています。
当グループは１９８１年の開設以来、相手の気持ちを思いやる心を大切に、高齢者ケアに専念してまいりました。
綿々と受け継がれるその取り組みや姿勢を少しでもお伝えできれば幸いです。

2022
4月　私の支えになっているもの　6
5月　自分らしい人生を　7
6月　心のこもった言葉　8
7月　介助者としての、面会での関わり方　9
8月　介護のやりがい　10
9月　ご夫婦の笑顔　11
10月　おしゃれ　12
11月　ある日の訪問歯科治療で　13
12月　忘れられない笑顔　14

2023
1月　おもしろい話　16
2月　ぎょうざ　18
3月　その方に寄り添った関わり方の大切さ　19
4月　凄い仕事　20
5月　小さな喜び　21



Nishiyama Smile

2022

新型コロナウイルスの「オミクロン株」、
夏には感染力の強い「BA5」が流行し、
感染者数が大幅に増加します。
そして、藤井聡太竜王が
史上初めての最年少五冠を達成。
冬季パラリンピック北京大会で、
日本は7個のメダルを獲得しました。

2023

6月 ご利用者に教えていただいたこと 22
7月 みんなで叶えた思い 23
8月 想いをつなぐ 24
9月 やっとこぶりだねー 25
10月 初志貫徹 26
11月 「食べる」ことが大好きな、食いしん坊なご利用者!! 27
12月 久しぶりにお会いして 28

2024

1月 健やかな成長 30
2月 いちご一笑 31
3月 ケアマネジャーとして働き始めて 32
4月 ご家族も一緒に 33
5月 A様の外出を試みて 34
6月 思いがけない言葉 35
7月 私が介護士になろうとした理由 36
8月 13年目の私の得意技 37
9月 夏祭りをやりたい 38
10月 俺は、酒がないと… 39
11月 芋掘りがしたい！ 40
12月 寄り添う看護 41

2025

1月 食べたいを叶える 43
2月 最後まで家で暮らしたい 44
3月 浜名湖園建物改修工事にて 45
4月 思いに寄り添う 46
5月 偶然が重なったレクリエーション 47

私の支えになっているもの

医療相談員になって、五年が経ちました。

相談員になりたての頃は、不安や心配ばかりで泣いてしまうこともありました。

周りの先輩方に支えていただきながら、相談員としての知識や技術を身につけ、今は以前よりも胸を張って対応することができていると感じます。

この五年、様々な出会いや別れがありました。

多くのご利用者、ご家族と関わる中で、

「ありがとう。」

「相談してよかった。」

「安心した。」

「西山病院に来てよかった。」

などの温かいお言葉をいただけることがあります。そういった皆様からのお言葉が、今の私のやりがいに繋がっていると感じます。

少しでも、「相談してよかった」、「西山病院グループを選んでよかった」と思っていただけるような対応を、これからも心掛けていきたいと思います。



相談員／T

自分らしい人生を

西山病院南館療養棟のレクリエーションでは、主に書道・花生け・折り紙・脳トレなどを行っています。

人それぞれ歩んできた人生、趣味や興味のあるものが違います。集団で行う体操やレクリエーションだけでなく、それ以外の個別レクリエーションも大事です。

人は、好きなことや興味があることを見つけると生きがいになります。私たちはそのお手伝いをしています。

女性は裁縫が得意な方が多いため、お手玉、ティッシュカバー、刺し子、パッチワークなどの制作に取り組んでいます。

フェルトで作ったキャラクターマスコットを「お孫さんへあげる！」と張り切って作っていらっしゃったり、難易度が高いクマのぬいぐるみも、夢中になって作成されています。

二、三年たった今でも「あの時の完成品は大事にとってあるよ」と声をかけてくださいました。

レクリエーションを勧めても、「別に何も興味がない」という方や、「農業しかやってきていないので何もできない」と言って敬遠された方には、折り紙から始めていただきました。

そういった方も、段々と様々な物に興味をお持ちになり、手芸を全て完成させていらっしゃいました。

「何もしたくない」とおっしゃる男性のご利用者は、定年退職した勤め先の動画を流すと表情が変わり、画面に食い入るように視聴されていました。

そして、昔あったことを私たち職員に懐かしそうに話してくださって、私も嬉しくなりました。

これからも一人ひとりに寄り添って、いつまでも自分らしい人生を送っていただくために支援していきたいと思います。

介護職員／S

心のこもった言葉

13年前のグループホームでのことです。

まだ感染症についての知識が浅いまま、仕事をしていた頃の1月4日。

あるご利用者が微熱を出しました。その方はノロウイルスに感染されていたのでした。

その後、次々と感染は広まり、職員にも感染してしまいました。幸いにも私は感染することはありませんでしたが、なかなか収まらず、グループホーム全体に感染が広がってしまいます。

当時の担当医師や看護部長にもご協力いただきましたが、収まる気配がありませんでした。そして、私自身も不安や自己嫌悪に苛まれることが多くなってきました。

そのような中、医師や看護部長から、

「終わりは必ず来るから大丈夫。僕に何かできることはないですか？」

「大丈夫。今やれることをやっていきましょう。」

といった言葉をかけていただきました。

二ヶ月半で感染がようやく終息となり、ほっとして感じたことは、心のこもった言葉の大切さ。その一言で勇気をもらい、頑張る力や信じる力になるということです。あの時かけていただいた言葉は、一生私の心に残り続けると思います。

私が今できることは、長い人生を過ごしてこられたご利用者に心温まる言葉をかけていくこと。そして、それができるような関わりを続けていくことだと思います。

介護職員／I



介助者としての、面会での関わり方

M様は、以前入院されていた施設から、終末期医療（※1）の説明を受けている方でした。

入院時は介護抵抗や夜間不眠で大声がありましたが、5月中旬より徐々に大声はなくなり、眠って過ごされる時間が増えました。

そして、お身体の状態にも少しずつ変化が見られるようになっていきました。

そのような中、ご本人より「家族の写真が欲しい」と希望がありました。

ちょうど、奥様とのガラス越し面会の予定があったため、面会時に写真を依頼することにしました。

当日はベッドで移動し、携帯電話を使用してガラス越しに面会を実施しました。

ベッドを起こしましたが、首が後ろに反り、お顔が上を向いてしまいます。そのため、前をしっかり見られない状態でしたが、M様は頑張って自分の目で奥様を確認することができました。

M様は返答まではなかなかできませんでしたが、携帯電話からの声はずっと聞くことができていました。

奥様が繰り返し呼びかけていると、急に「愛してるよ!!」と大きな声を出されました。

はっきりした声を出されたことにも驚きましたが、まさかそんな言葉が出るなんてと、私はとても感動してしまいました。

奥様は笑顔で「嬉しい、ありがとう」と返答されていました。

私は「M様と奥様は、仲の良いご夫婦だったんだろうな」と感じました。

私はこの一瞬で、「M様の身体の状態が低下してきていること」や「コロナ禍であり、直接触れて面会できていないもどかしさ」、「『家族の写真が欲しい』とおっしゃったM様のお気持ち」を考えました。

そして、「数分の面会であっても、ご家族との面会時間がより良いもの」になるように、関わっていきたいと思いました。

看護師／Y



※1終末期医療…回復の見込みがない場合、延命治療ではなく身体的・精神的な苦痛を和らげ、生活の質（QOL）を保つことを目的として行う医療やケアのこと。

介護のやりがい

介護職員／K

西山病院グループに就職して16年が経ちました。初めは、「楽しい」よりは「辛い」の方がとても大きかったです。

しかし、ご利用者からの「ありがとう」に救われながら、現在まで続けてこられました。

先日、入居していたO様が亡くなられました。

お見送りの際、O様のご家族から、「あなたに看取られて、母もとても嬉しかったと思います。本当にありがとうございました」

と、声を掛けていただきました。

直接、「ありがとう」と言ってもらえる仕事がどれだけあるでしょうか。これまでの経験から、私は「ありがとう」の言葉をいただくことが、一つのやりがいになっています。

そんな、皆さまからの「ありがとう」を支えとして、より良いケアに繋げていきたいと思います。



ご夫婦の笑顔

リハビリ職員

現在、西山ウエルケアで別々の療養棟に入所されているご夫婦のお話です。

本来ならば、ご夫婦で同じ施設内に入所されているのだから、定期的に顔を合わせてお話をして楽しんでいただきたい……。

しかしながら、コロナ禍の昨今、なかなか難しい状況にあります。

そのような中、「奥様がご主人に会いたがっている」という話を看護師から聞きました。

リハビリのタイミングでお二人を会わせられないだろうかと考え、上司へ伝えました。

そして、数日後。許可が出て、ついに実現することができました！

久しぶりに会えたとき、お二人はとても良い笑顔でいらっしゃいました。

奥様は、「しばらく会えていなかったけれど、会えて嬉しかった」と大変喜ばれました。対面後には付き添ったリハビリスタッフに「ありがとねぇ」と声を掛けてくださいました。

また、ご主人も、「お互い年だから頑張ろうな！」と奥様に話しかけて、励ましあう姿が見られました。

ご主人と久々に会えた日から、奥様はその日のことを思い出し、リハビリのたびにお話しされます。

我慢が多いコロナ過ですが、ご利用者の希望を叶えるお手伝いができ、私たちも温かい気持ちになれたできごとでした。



おしゃれ

デイケア理学療法士／M

「私がウィッグをつけているの、知っていた？」と、ご利用者に突然声をかけられました。

「私にとっておしゃれは元気の源なの。ウィッグをつけて、帽子もかぶるのよ」

いつも、身なりに気をつけているのがわかりますよ。

「私はおしゃれをすることで、若くみられることが多くなったわ」

背筋も伸びていて健康的に見えますよ。

「職員が服装を褒めてくれるし、リハビリで背中を伸ばしてもらって、いつまでも若々しくいられる気がするのよね。……そういえばこの間、デイケアに来ている男性から『若いね』って言われたわ」

もしかして、あちらの方ですか？

「そうなのよ。あの方は１００歳を超えているのよね」

ご利用者に「帽子もおしゃれで、とても素敵ですよ」とお伝えすると、

「あら、これは西山ナーシングの売店で買ったものなのよ」と、にっこり。

お買い上げありがとうございました。

おしゃれが生きる喜びになることを知った、ちょっと良い話でした。



ある日の訪問歯科治療で

歯科衛生士

入れ歯が合わず、使用していなかった女性Ａ様。彼女のご自宅で治療したことのある歯科医師が、西山病院へお見えになりました。

ご利用者が西山病院に入院されて、数か月のことでした。

彼女はお声が小さくて言葉数も少ないので、私が代弁しながら今後の治療方針を立てて、受診の終了間際。

いつの間にか先生に近づいていた彼女が、先生の腕にそっと手を置いて、「黒いね」と一言。

私が「先生、日焼けして引き締まった腕ですね。」とフォローすると、先生は「釣りをやっているもんでね。」と、メガネの奥の目尻を下げました。

そして先生はカルテを覗きながら、「入れ歯が治ったら何食べたい？　入れ歯を作った時は、うなぎが食べられたと言ってたね。」とおっしゃいました。

Ａ様は、はっきりと大きな声で、

「モンブランケーキ！」

とお返事されました。

私は、Ａ様の大きな声と今までと全く違う表情に一瞬びっくりしながらも、つられて「じゃあ、入れ歯に慣れたらモンブランケーキ！」と、はしゃいでしまいました。

先生は、「そうだった、甘いものに目がなかったよね。むし歯でまた歯がなくなっちゃうからほどほどにしないとね。」と優しく釘をさされました。

はじめは緊張気味の歯科受診でしたが、Ａ様が旧友にするようなユーモアのある仕草や言葉遣いをされたので、先生や私までも和やかな気持ちになったできごとでした。



Nishiyama Smile

2023

新型コロナウイルスの位置付けが
インフルエンザと同じ5類へ移行し、
世の中が徐々に変化し始めました。
日本代表「侍ジャパン」が
前回王者の米国を破り、世界一に。
大谷翔平、ダルビッシュ有らが集い、
歴代最強チームに日本中が沸きました。

忘れられない笑顔

訪問看護課へ配属となり、不安や戸惑い、難しさなどを感じている中、癌末期のご利用者に関わる機会がありました。

認知症があり、お声をしっかりと出すことができませんでしたが、私の声掛けにいつも笑顔を見せてくださっていました。

全身状態は悪化傾向にあり、ご家族と今後の方針についてお話しさせていただき、「病院だと面会もできなくなるし、本人は『点滴などが嫌い』と言っていたので、このまま家で看ます」と思いを聞かせてくださいました。

それから二週間ほど経ったある朝、状態が急変しました。そして、とても穏やかな表情をして、ご自宅で息を引き取られました。

その表情を見たご家族は「良かったね」と笑顔で声を掛けられていました。

ご自宅で介護をされることは大変なことではありますが、その表情を見た時、住み慣れた自宅で最期を迎えられて良かったと感じました。

今でも、その時の光景とご本人の笑顔を思い出します。

訪問時間でできることは限られています。その中で、ご本人・ご家族の思いに寄り添い、ご自宅で「その人らしく」過ごしていただけるよう、支援していきたいと思いました。

看護師／S



おもしろい話

地域連携センター長・医師／華岡





私は、40歳から60歳の約20年間、海外8カ国で居を構え、家族と暮らした。

この20年間を走馬灯のように振り返ってみよう。

まず、最初に赴任したのはマダガスカル。原始的なサル、バオバブという固有種の木、「星の王子様」のモデルにもなる標高1000メートルの大地の田舎、ここで働く日本人のシスターたちと出会うことができた。

次にブラジル。日本から24時間以上飛行機に乗り、時差は12時間。標高900メートルの台地が広がる。日本人移住者が唯一成功した移民の国ブラジルは、気候が良く、ラテン系の耀きがあり、温かく貧富の差が激しい。サッカーで国が一つにまとまれる。

そしてパプアニューギニア。未開の地に突然、車やコンピューター、鉄砲が入ってきた部族主体のラスカルの国。日本から真南にありた位置にある。第二次世界大戦では、この国周辺での戦いが日本の負け戦の始まりとなり、今でも沈没船が湾で顔を出している。ジャングルには危険な熱帯マラリアがあり、日本人の遺骨が埋まっている。遺骨収集の家族との出会いもあった。

ルーマニアの首都ブカレストは、欧州東に位置するため、黒海まで車で1時間で着く。ここにはリゾート地があり、近くでウクライナ戦争が起こっていることが信じられない。ワインが美味しく、ドラキュラ城もある。1時間かからずにドナウ川まで行くことができ、ブルガリア国内にすぐに入れる。

車で8時間ほど南下すれば、イスタンブールに着く。西の隣国ハンガリーには、車で15時間ほどかかるため、一泊してから移動する。

リビアはカダフィー将軍が統治し、治安はよく、中世のローマ帝国の素晴らしい遺跡や世界遺産が数か所ある。アフリカといっても、首都のトリポリは地中海に面しているため、毎日新鮮な魚が揚がり、本マグロが日本の十分の一ほどの値段で食べられる。

しかし、アラブ赴任中の春に、社会情勢は急変。荒波の多い2月に、8時間かけてアメリカ救援船フェリーでマルタへ退避することとなる。よく沈まなかったと思うぐらいの船旅で、船酔い必発。







その後、1か月の日本滞在。この間に東北大震災があり、東京は霞ヶ関の外務省にて被災する。

さらに、エジプトカイロに半年間滞在。カダフィー将軍死去後のトリポリで、毎日、大砲、機関銃音のする中で半年間過ごす。

以降はロンドンへ。初めての先進国勤務である。長男は中学生、次男は小学6年生、三男は小学1年生。上二人はインターナショナルスクールへ、三男は地元校へ通い、4年半ほど暮らす。

私は単身で一年間をリビアで過ごした後、ロンドンで家族と再会。長男次男は日本で高校を受験して寮へ入った。

最後に、三男を連れてカンボジア、アンコールワットを訪れ、サイゴン、シンガポール（ラスベガスサンズホテル）へ旅行する。三男も中学受験となり、家族全員日本へ移住。

その後、再び単身勤務したが、両親四人が高齢となり、20年間にわたる海外生活に予定通り終止符を打つ。

現在は、西山病院グループに勤務している。

最後に、少し笑えるお話を。

子どもは息子三人、当然みんな帰国子女である。家族から叱られるかもしれないが、この息子の一人の笑い話を。

ある晩、家族で鍋を食べていると、ママに「そこのおまた取ってくれない？」と息子が言う。

「なにそれ？」とママが聞き返すと、彼は「『おまた』だよ。鍋のだしを取りたいから。」

「それをいうなら『おたま』でしょう？」

帰国子女家族だと、こういう話題が時折あります。

以上連携センター長、ホームページ委員長の華岡外国人でした。私の芸名は、イッシーロドリゲスです。何の意味もありません。







ぎょうざ

先日、「餃子レク」を行いました。

始まりは、ある病棟の「A様がぎょうざが食べたいって言ってるよ。」という声からでした。その方は、普段はミキサー食を召し上がっており、普通の餃子は召し上がれません。

最初に、ミキサー食でも食べられる既製品の餃子を探し、サンプルをもらって試食しました。形は餃子なのですが、どれも本物にはほど遠い味でした。

そのため、「自分が作るしかない！」と思い、色々な方から助言をいただきながら試行錯誤を重ね、ミキサー食でも食べられる餃子を考案しました。

「餃子レク」当日、皆様に喜んでいただけるか不安でしたが、A様をはじめ多くの方に喜んでいただきました。

A様からは、

「ニンニクの味が効いていておいしかった。」

と、笑顔で言っていただきました。

普段、流動食を召し上がっているあまりお口が開かない方も、その日はペロリと完食されていて、試行錯誤をした努力が報われた瞬間でした。

これからもご利用者の声に寄り添った栄養管理をしていきます！

管理栄養士／I



その方に寄り添った関わり方の大切さ

私が担当するA様はひとり暮らしで、認知機能の低下が原因で、自宅でお風呂に入ることができませんでした。

ご家族が入浴を手伝う準備をしたり、ヘルパーの検討をしたり試行錯誤しましたが、A様は「一人で入っているからいい。」と、強く拒否されました。

ご家族と私は、A様が入浴の介助を拒み、お風呂に入れないことを悩んでいました。

そこで、西山の杜デイサービスへ利用の相談をして、A様が通うことになりました。

すると……。

なんと、A様は、デイサービスへ通い始めてから2回目に、お風呂に入ることができたのです！

私は驚いて、なぜ入浴できたのか職員に聞くと、今までA様は、「恥ずかしい、体を見られたくない」という気持ちが強くてお風呂を拒否していたことがわかりました。

西山の杜デイサービスでは、「体を見られたくない」というA様の気持ちに寄り添い、体を隠すことができるお風呂専用のタオルを作ってくれていたのです。

他にも、A様が大好きな演歌を流し、好きな演歌歌手のお面をつけて、お風呂に誘ってくれたようでした。

お風呂に入ってもらうことばかりを考えていた私は、A様の気持ちに寄り添うことや、女性としての思いを大切にすることを学びました。

ケアマネジャー／G



凄い仕事

あるご夫婦の入院のご相談で、ご家族が来院されました。

ご夫婦共にお体の状態が違い、必要な在宅サービスやタイミングが異なっており、ご家族は実家へ泊まり込んでご夫婦の介護をされていました。

それでもやはり限界があり、どうしてもお二人の介護を続けることが難しくなって相談に訪れたのです。

今までの経過を伺い、ご夫婦とご家族にとって一番良い今後の方針を一緒に考え、入院をお申し込みされることとなりました。

最後にご家族より、「本当に凄いお仕事ですね。」と泣きながら感謝のお言葉をいただきました。

一人ではなかなか答えの出せないご両親の介護について人一倍悩み、頑張ってきたご家族に、「安心しました。」「今日お話ができて本当に良かった。」などと言っていただけて、私も力になれたことが嬉しくなりました。

そして、「直接言っていただいて嬉しく、これからもっと頑張る気持ちが湧いてきます。」とご家族にお伝えしました。

私たちが寄り添ってお話を聞くことで、こんなにも安心していただけること、「凄い仕事だ」と言って感謝していただけること。

やりがいでもあり、これからも一人ひとりに寄り添った対応を心がけようと感じました。

相談員／M



小さな喜び

毎日ご利用者と関わっていると、「テレビ電話ってどうやるの?」、「今日は〇〇を食べたいわ。」と、いろいろなことをお願いされたり、聞かれたりします。

すぐにお返事や対応ができない時は、「確認してからお伝えしますね。」、「他の方に先に呼ばれているので、終わったら伺いますね。」などの声掛けをしています。

ある朝、食事前にA様から『体内時計』って言葉は実在している？ それとも職員さんの造語？」と質問がありました。

「体内時計」という言葉自体は知っていましたが、改めて質問されると、すぐにお答えできませんでした。

A様は国語辞典を持参されていたので、「朝食が終わって落ち着いたら、Aさんの辞典で一緒に調べてみましょう」とお答えしました。

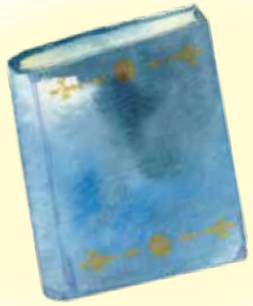
ご利用者の朝食と介助が終わった後、「調べに来ました。」と伺うと、A様は少し驚いたお顔をされました。

そして、「こんな小さなことでも来てくれてあなたは偉いね。」とおっしゃいました。

「ご利用者に頼まれ、約束し、部屋に行く」という当たり前のことをしただけで、このようなお言葉をいただいて驚きましたが、とてもうれしかったです。

日々のささいな行動で、ご利用者に感謝され、笑顔になる。介護の仕事をしていて改めてよかったと思えた朝でした。

介護職員／S



ご利用者に教えていただいたこと

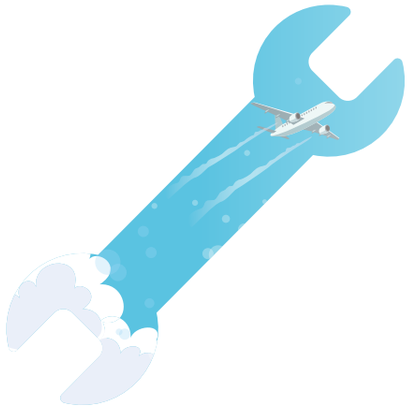
介護職員／S

A様がハイジの家に入居されたのは、一年半前のことです。

60歳まで飛行機の整備士を、その後は別荘の管理人のお仕事をされていました。

A様は、アルツハイマー型認知症と糖尿病の疾患を持っていらっしゃいましたが、お話好きな方で、他のご利用者と親しくされていました。

しかし、一人で自由に外に出られないこと、お腹いっぱい食べられないことがご不満なようでした。



「ここはルールが表示されていない！　きちんと説明すべきだ！」

と、職員に怒りをぶつけられることが多々あり、施設から出てしまったこともありました。

お怒りになる度に説明をさせていただきましたが、病気のためすぐに忘れてしまい、また怒りを覚えてしまうという日々でした。

ある日のことです。

他のご利用者が排水口に義歯を落としてしまいました。職員二人でパイプを外すことに苦戦していた時、A様が「貸してごらん。」と、声をかけてくださいました。

洗面台の下に寝転がってベンチを回し続けて、見事パイプが外れました。そのおかげで、無事に義歯を取り出すことができました。

A様は昔のご職業から、修理が得意だったのです。今まで理屈っぽい、すぐに怒る方だと決めつけていたことを反省しました。

ご利用者が得意なことを引き出すケアの大切さをA様から教えていただきました。

A様は、ときどき怒ることもありますが、元気に過ごされています。

みんなで叶えた思い

看護師／K

終末期にあり、ケアを受けていたA様のご家族の「コロッケを食べさせてあげたい」。

そんな思いを叶えるため、管理栄養士、リハビリスタッフ、ケアマネジャー、看護師などの多職種が連携・協力をしました。

A様がコロッケをそのまま召し上がるのは困難なため、ジャガイモをペースト状にしソースをかけたものをご用意しました。

ご家族や看護師が介助をし、A様に少しずつ召し上がっていただきました。

「いかがですか？」

「おいしいですか？」

の問いに、A様は指で丸をつくるハンドサインをしてくださいました。

その時のご家族の笑顔はとても嬉しそうで、A様の表情もキラキラしていました。

些細な量の食事です。しかし、本人の「食べたい気持ち」と、ご家族の「食べてもらいたい気持ち」の両方が叶った瞬間は、職員にとっても嬉しいものでした。

職員一人では実施するのが困難でも、それぞれの職種が専門性を発揮して協力すれば、思いを叶えることができると分かった瞬間でした。今後のケアに活かせる、とても素晴らしいできごとです。

これからも、日々ご利用者の思いを叶えるにはどうしたら良いのかを職員一同で考えて行きたいと思います。



想いをつなぐ

私は、緑が多く、のどかな田舎町に生まれました。

まだ小学生のとき、通学路を歩いていると、近所のご高齢の夫婦がいつも「子どもがいるっていいな。子どもは宝だ」と、声をかけてくれました。

そのおかげで、私は、自分たち子どもは血の繋がりのない人たちからも大切にされている存在だと感じていました。

その後、小学生のころの福祉体験がきっかけでこの仕事に就こうと、福祉の学校を卒業し、西山病院グループに就職しました。「高齢者のためになろう」と、毎日励んでいます。

ある時、私は熱中症にかかり、数日間お休みをすることがありました。

その前日に、あるご利用者にお願いごとをされていたので、復帰後すぐに、その方のところへ伺いました。

そして、お願いされていたことが遅れたことを謝罪しました。

自分が熱中症にかかり休んでいたことを伝えると、その方は、「私のことなんて忘れていいの！　熱中症になるなんて、よく働いている証拠よ」と、優しく元気づけてくれました。

その一言で、近所にいたご高齢の夫婦のことがフラッシュバックし、不覚にも泣いてしまいそうでした。

私は今も変わらず、この年代の方に大事にされているのだと感じました。

様々な影響で他人との距離が遠くなるこの時代ですが、人を大事にする想いを受け継いでいきたいと思います。



西山の杜／N

やっとこぶりだねー

転院されてきたO様は、当院にいらした当初、右片麻痺(※1)のため体を思い通り動かせませんでした。また、失語症(※2)もあり、コミュニケーションを十分にとることもできませんでした。

少しずつリハビリを進めていき、体調も整ってきたところで、看護師・介護職と協力し、昼食時に車いすに乗っていただくことになりました。

はじめは、O様は起きるのが嫌で、車いすに乗ることに消極的でした。なんとか説得して車いすに乗っていただいても、すぐに疲れてしまい、ベッドに戻りたいとおっしゃっていました。それでも、O様と相談しながらコツコツと続けていったところ、次第に体が慣れてきて、車いすに乗ることを徐々に嫌がらなくなっていきました。

先日、こちらの都合で二週間ほどお会いすることができませんでした。しかし、久しぶりにお会いした際に、

「やっとこぶりだねー。」

と、笑顔で迎え入れてくださいました。

その時、なんだかとてもうれしい気持ちになり、この仕事をやっていてよかったなと、心から思うことができました。

こういう小さな感動をみなさんにいただきながら、より良いサービス・ケアができるよう、日々仕事に向き合っていきたいと思います。



理学療法士／S

※1 右片麻痺…左脳の損傷により、身体の右側の運動機能や感覚機能がマヒしている状態。左脳には言語機能をつかさどる部位があり、失語症を併発することがある。
※2 失語症…脳の損傷により、話す・聞く・読む・書くといった言語機能に障害がある状態。

初志貫徹

介護職員／O

入職した頃のお話です。

私は異業種である商社に35年勤務し、営業をしていました。その後、西山病院グループへ入社して今に至ります。

前職では、営業という人との関わり合いのある仕事に携わり、お客様との人間関係を築いてきました。西山病院グループでは、通所リハビリテーションに勤務し、ここでも人との関わり合いを持てる仕事に就くことができました。主に介護の仕事しています。

入職当初は知識も経験もなく、いきなり飛び込んだ介護の仕事。本当に苦労の連続でした。入職前の面接の際、「介護の仕事を一言で表すと何ですか？」と問われた私は、「ご利用者との信頼関係」と答えたのを覚えています。





それから早くも7年が経ちました。ご利用者となんでも話し合える職員でありたいと常に考えて勤務しています。

ご利用者に思いっきり笑っていただき、楽しい時間を過ごしていただけるように心がけています。

これからもご利用者から信頼の得られる職員でありたいです。

「食べる」ことが大好きな、食いしん坊なご利用者!!

歯科衛生士／T

西山病院に入院されたご利用者についてのお話です。

重度の飲み込みの障害で、点滴をされている方でした。召し上がることができても、ゼリー数口程度でした。

思うように食事することが難しく、

「お腹がペコペコなんだけど…」

「なぜ、ご飯が食べられないの？」

と話され、悲しそうな顔をされる毎日。

そこで私は、言語聴覚士と協力し、入院一週間後より、ご利用者の「口腔リハビリ」をスタートしました。

リハビリのおかげで、現在、大好きな果物や、ご家族からの持ち込みの「助六寿司」、お土産の「お饅頭」など、好きなものを好きなだけ召し上がることができています。

ご本人がお好きなものだと、必ず

「おいしいから食べてみな～」

と、おっしゃりながらも、最後にはすべて召し上がってしまいます。そして、

「あっ！　全部食べちゃった」

と、お茶目な顔をされます。



ご家族からは、「母はこんなに大切にされて食べたいものを食べられるようになって、幸せです。」とうれしいお言葉をいただきました。

そのとき、「頑張ってよかった」と心から感じました。いつも、そのようなお言葉から、ケアができたことの幸せな気持ちや仕事を楽しく頑張るエネルギーをもらっています。

先日、様々な職種の思いやり・気遣い・協力などによって、ご利用者が入院されて二回目の「誕生日」を迎えることができ、笑顔で「レアチーズケーキ」を召し上がっていました。



久しぶりにお会いして

作業療法士／S

育休を明けて復帰し、久しぶりに訪問したご利用者のお宅でのできごとです。

「お久しぶりです」と、ご挨拶すると、ご利用者は不思議そうな顔をされていましたが、少しすると「思い出した！」と、私について覚えていることを話してくださいました。

マスクが必須のこのご時世で、顔を認識しにくく、なかなか人を覚えにくい中で、エピソードだけで覚えていてくださったことが嬉しかったです。

「また来てくれると思わなかった。あなたが来てくれるのが楽しみ」と、言ってくださり、自分が良いケアができていたのか自信はありませんが、少なくとも良い関係性を築くことができていたのかな、と感じました。

職場復帰して、「仕事がうまくできるか」という不安を抱えていたときに、とても励みになるできごとでした。

良いケアをすることはもちろんですが、関係性を築くことの大切さや面白さを感じながら、日々のケアをしていきたいです。



健やかな成長

保育士／H

こりす保育園で保育士をしていると、四月に入園、進級した子どもたちも大きくなり、友達との関わりやできることが増えて成長を感じます。

０歳児さんは、ハイハイをしていた子も立って歩けるようになりました。

お友達が泣いていると、頭を「よしよし」と優しくなでてくれる姿もあり、見ていてほっこりします。

一歳児さんは、お話が上手になり、ごっこ遊びができるようになりました。

「いらっしゃいませ～。　何にしますか？」「〇〇先生！」と、お友達や職員の名前を呼んで、公園でよくアイスクリーム屋さんごっこをしています。

「アイスください！」と言うと、

「はい、どうぞ！」と手渡してくれます。

「何味？」と聞くと、

「いちごアイス！」「メロンアイス！」と答え、色々なアイスを食べさせてくれます。

二歳児さんは、お友達に優しく教えてくれます。



ドアをドンドンしているお友達がいると、「ドンドンしちゃダメだよ、壊れちゃうからね！」と伝えます。

ママがお仕事に行ってしまい、「ママ～！」と泣いているお友達には、「ママお仕事行っちゃったね、お迎え来てくれるから大丈夫だよ」と、励ましの言葉をかけてくれます。

「そんなこと言えるようになったの!?」と、職員も驚くことばかりです。

これからも、子どもたちの健やかな成長を安全に見守っていきたいと思います。

いちご一笑（いちえ）

管理栄養士／K

いつも、イベントやご利用者のご要望に合わせて手作りおやつをお出ししています。

その日はクリスマスが近かったので、「いちごパフェ」をご用意することになりました。

その直前、街のケーキ屋を特集した本を見つめているご利用者が目に入りました。

たまたま私もその本を持っており、嬉しくなってお声掛けしたところ、

「この本は時々見るの。でも最近は行けてないんだよね」とのこと。

いろいろな想いを抱えている方がいるのだなと思いながら、その方にもパフェを召し上がっていただきました。

すると、「今日はケーキ屋に来たみたいで嬉しい！」と言ってくださいました。

おやつを作った者としては嬉しいお言葉であり、「次は何を作ろうかな」と胸が弾む瞬間でした。

西山病院グループでは、さまざまな想いを抱えたご利用者が日々過ごされています。

「ご利用者の想いや要望に少しでも寄り添いたい」という思いで、私たちもおやつを作っています。

ご利用者に寄り添い、今後も管理栄養士として想いを形にしていけるよう、日々取り組んでいきます。



ケアマネジャーとして働き始めて

ケアマネジャー／S

西山病院グループにケアマネジャーとして勤務し始めて半年。

今まではリハビリ職員（作業療法士もしくはデイサービスの機能訓練員）として、30年間ずっと肉体労働者だった。

膝を痛め、リハビリの仕事を辞めてケアマネジャーに転職することを告げると、以前の職場の同僚から口々に「ケアマネジャーになると太るよ」と言われ、心配された。

事実、元々ケアマネジャーをしていたセンター長は、あっという間に7キロも太ったらしい。「ケアマネジャーの仕事は大変だ」とはよく聞くけれど、太るリスクもあるのか、と恐れおののきながら入職した西山病院グループ介護保険センター。半年間の結果は多分、おそらく、大目に見てまだ太っていない。（と思う。）

なんといっても西山の敷地は広い。職員駐車場から更衣室までもが朝晩ちょっとしたウォーキングコースだ。うれしいことに、山あり谷あり階段あり、リハビリメニューを全部こなせるような充実ぶり。

そして、口々に「こんにちは」と、挨拶しあう職員の皆様。気を抜いてぼーっと歩いていたら挨拶に出遅れてしまう。そんなさわやかな緊張感を持って毎日を送ることができている。

気が付けば、自分もご利用者やご家族の年齢にどんどん追いついてきている。

「気持ちのわかる親切」を心がけ、残り少なくなってきた仕事人生を大事に過ごしていきたい。



ご家族も一緒に

施設ケアマネジャー／S

新しく入所されたA様は、右半身麻痺・嚥下障害（※1）があり、経管栄養（※2）を行っています。

失語症もあるため、ご家族からもあまり話せないと伺っていました。

ある日、言語聴覚士と一緒に、リハビリでA様が歌を歌っている所を見る機会がありました。

私は、「ご家族にもこの様子を見ていただきたい」という思いになり、言語聴覚士に相談しました。

そして、ご家族の面会時に、言語聴覚士が撮影したA様のリハビリの様子を見ていただきました。

ご家族は「とても嬉しい、こんなことまでやってくれている」と喜ばれていました。

「前にいた病院では元気なさそうだったのに、表情も明るく元気な様子も見れて、本当に嬉しい。姉や弟にも見せたいのでこの動画をもらうことができないか？」と、ご要望をいただき、リハビリ職員の協力でご家族に動画のデータをお渡しすることができました。

ご家族と一緒に情報共有ができたこと、ご利用者だけでなくご家族の嬉しそうなお顔を見ることも重要なことだと気付かされました。



※1 嚥下障害…水や食物などを飲み込む動作がうまくいかない状態。
※2 経管栄養…口から食事を摂れない方に、チューブで胃や腸に直接栄養剤を投与する方法のこと。

A様の外出を試みて

西山ウエルケアに入所されているA様は、日に日に衰弱されて目を閉じている時間が長くなり、言葉数も少なくなっている状態でしたが、ご本人とご家族の希望で、ご自宅へ外出することになりました。

外出中、A様はずっと目を閉じたままで、目を開けることはありませんでした。

ご自宅で過ごした20分間は何かするわけではありませんでしたが、自分の家にいるということを実感してくださったのか、終始、穏やかな表情をされていました。

その後、お声がほとんど聞かれなくなっていたA様でしたが、旅立たれる数時間前の入浴時に、「ありがとう。」とおっしゃってくれました。

ご家族からも、「家に行くことができて本当に良かったです。」とお言葉をいただきました。

ご自宅での生活を支えていた居宅ケアマネジャーからも、「ご家族がウエルケアに感謝されていました。」と、伝言をいただくことができました。

介護職員／Y

ご利用者とご家族の意向に沿えることができて、改めて介護の仕事をしていて良かったと思いました。



思いがけない言葉

少し前のことですが、大好きな私の祖母が亡くなりました。おばあちゃん子だった私は、とても辛くてたくさん泣きました。

その休み明けの日のことです。

その日は、言葉遣いの荒いA様がいるフロアの担当でした。いつもはそこまで気にならないのですが、今日は暴言を言われてしまうと、気持ちが落ち込んでしまうかも…と思いながら、A様の居室に入りました。

案の定、「うるせえ！　なんだよ！」と強い口調が。

しかし、祖母が亡くなった話をすると、「それは辛いな。俺も奥さんが亡くなった時は辛くて、最期は顔も見れなかった。そういう時は泣けばいいんだ。」

とおっしゃってくださり、思わず涙がこぼれそうになりました。

A様は、大きな声で暴言を吐くことがあり、声かけに対しても強い口調で断られることもあります。私は正直、A様を苦手に感じていました。けれど、よく見ていると他のご利用者の体調や行動を気にして職員に教えてくださることがあり、優しい一面もあることに気付きました。

後日、私にかけて下さった言葉について、A様に話をしたところ、

「そんなこと言ったか？　忘れたな。」

と、笑っておられました。

A様が忘れてしまっても、私はその日のことは絶対に忘れません。

そして自分も同じように〝気持ちの分かる親切〟を心掛けて、ご利用者のケアを行っていきたいと思います。

介護職員／A



私が介護士になろうとした理由

介護職員／T

私が中学生の時に、学校の行事で高齢者施設を見学することがあり、そこでお話をしたご利用者との関わりが「介護士を目指す」きっかけになりました。

当時の自分は、「人のためになることをしたい」と考えていましたが、人のためになる仕事は数もあり、どの仕事に就きたいかなど考えていませんでした。

施設の様子をひと通り見学し、ご利用者とお話をする時間がありました。

話をしたご利用者は声が小さく難聴だったため、話をするのも大変だったことを覚えています。

お話が終わり、ご利用者に挨拶をすると、笑顔で「ありがとう。また来てね。」とおっしゃって手を振ってくださいました。そのお言葉がとっても嬉しかったです。

その時から、介護の仕事は大変そうだけど、ご利用者と触れ合えるやりがいのある仕事だなと感じ、介護士を目指そうと思いました。

小さなきっかけでしたが、自分にとっては大きなできごとになりました。

今、介護士として働き、7年目になります。様々なご利用者と関わり、大変だと思うことは何度もありますが、ご利用者の見せてくださる「笑顔」や「感謝の言葉」で、毎日頑張れています。

今後も皆さまのお役に立てるよう、頑張ります。



13年目の私の得意技

介護職員／K

私は指3本を動かしながら、「スリー、で～す！」と答えました。

A様「Ｔｈａｎｋ ｙｏｕ!!」

A様は満足されたようで、とっても素敵な笑顔をみせてくれました。

それからというもの、A様と時間を確認する英会話が日課となっています。

以前は入浴を拒んでいたA様が今では、「ニューヨークへ行きましょう！」、「今日はフロリダへ！」などとお誘いすると、ご機嫌良く「風呂リダ」!!へ直行してくれます。

A様は、ご親戚がハワイにいることや英会話が好きなことを話してくれました。

ご利用者の好きなことや得意なこと、その人をたくさん知ることで、会話のキャッチボールがスムーズになります。

私の得意技はこれだった！と思いました。

介護職13年目の慣れが生じて、要領よく受け応えしていたことを反省しました。

最近、英会話を学びながらのA様とのやりとりが楽しいです。

A様「☆$€ニ＊〇Ｔ☆…??」

私「え!? なんですか？」

A様「Ｗｈａｔ ☆〇＊→♪、？」

何を言っているのかわからない時は、「へェ、ホー、凄いですね！」と、なんとなく相槌を打って微笑みます。これ、私の得意技。これでけっこう乗り切れています。

しかし、A様は諦めずに繰り返し私に何か聞いてきました。

（ん？ これは日本語じゃないな、英語？）

私「オー、イエス！ イエス!!」

私は相槌を打って、また微笑みます。

答えを求めているA様、通じない私にご不満な表情になってきてしまいました。

私「リピート？ ワンモアプリーズ？合っている？（汗）」

A様「Ｗｈａｔ ｔｉｍｅ？」

（タイム!? タイムか、わかったぞ！ 時間を聞いているのか！）

A様の発音が流暢で聞き取れませんでしたが、英語で時間を聞いていることがやっとわかりました。

夏祭りをやりたい

介護職員から「夏祭りをやりたいな」と出たひと言から、「それいいね」、「やってみよう！」と、賛同する声が上がり、八月に病棟で夏祭りを行うことができました。

ご利用者にお祭りの雰囲気を感じて欲しい、懐かしい味を食べてもらいたいという思いから、「昭和レトロ」をテーマに行いました。

病棟に、懐かしい昭和レトロの看板やレコードなどを展示し、浴衣を着た職員とご利用者で盆踊りをしました。

踊れない方も楽しんでいただくために、プロジェクターで天井に花火を映して楽しんでいただくことができました。

ご利用者は、「花火なんて何年ぶりかね」と、喜んでくださいました。

懐かしいメニューとして、お好み焼き、枝豆どうふ、綿あめ、かき氷、冷やし甘酒、ノンアルコールビールなどをご用意しました。

お好み焼きを食べて喜んでくださる方や、目の前で削るかき氷に感動されるご利用者がたくさんいらっしゃいました。

職員のひと言から始まった夏祭りでしたが、病棟職員全員で取り組みました。

なにより、制限の多いご利用者の入所生活に季節を感じて「ホッ」としていただくことができ、笑顔が増えた時間でした。

これからも、「生活の場」の中に楽しみを提供できるイベントを継続していきたいと思いました。

看護師／I



俺は、酒がないと…

以前、担当していた一人暮らしの男性のことです。

ご本人から、「腰が痛くて掃除ができなくて困っている。俺は一生懸命働いてきたから、介護保険を使う権利がある。」と相談があり、私が男性のケアマネジャーを担当することになりました。

お酒が好きな方で、少し酔って、事務所に自慢話や世間への愚痴を言いに来ることが何度かありました。

担当して一年ほど経過した頃、「サービス利用料のことで納得できないことがある！」とご連絡をいただいたので、ご自宅へ説明に伺いました。

やはり少し酔われているご様子でしたが、一時間ほど色々と説明していくと、

「わかった！　そういうことだったのか！忙しいところ呼び出してしまってすまない。」

と、ご理解いただくことができました。

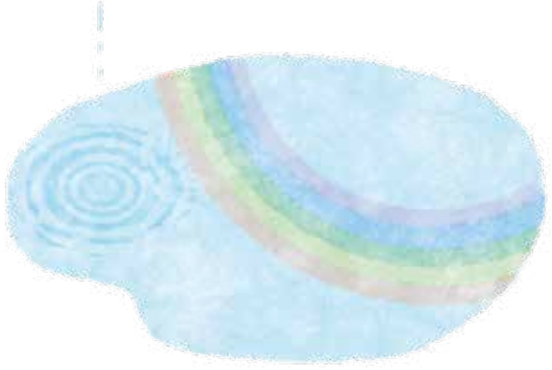
そして、そのあとに「いやぁ、俺は酒がないと人にものを言えないんだ、気が弱いんだ。」

と、照れくさそうに話されました。

ご自身の本当の姿を伝えてくださってからは、辛いことや弱音もお話しして下さるようになり、どのように暮らしていきたいと思われているのかよく分かるようになりました。

ご本人の本音が聞けると思いがわかって、支援も楽しくなると感じたできごとでした。

社会福祉士／O



芋掘りがしたい！

理学療法士／H

西山ウエルケアには、屋外菜園があります。今までに大根やキュウリ、ピーマンなど色々な野菜を育て、収穫を楽しみました。収穫した野菜は、栄養士がメニューを考え、ご利用者に召し上がっていただいています。

朝晩少しずつ涼しくなってきた頃、「そろそろサツマイモの収穫かな？」と職員同士で話していました。

あるご利用者に、リハビリの際、「何かやりたいことはありますか？」と聞いたところ、「昔は農家をやっていてね。芋掘りがしたい！」とのお言葉をいただきました。

その方は普段、積極的に何かをしたいと話されるタイプではなく、「芋掘りがしたい」とハッキリ希望されたことに驚きました。

そして、サツマイモの収穫作業に参加していただくことにしました。

収穫当日は晴天。久しぶりの屋外に、「気持ち良いね！」と参加された方は口々に仰っていました。

そしていよいよ、芋掘りスタート！



勢いよく土を掘って、サツマイモを探していきます。次々に「あった！」「こんな大きいのがとれたよ！」と、報告して下さいます。

「芋掘りがしたい」とおっしゃっていたご利用者も、とても嬉しそうにサツマイモを収穫し、笑顔を見せてくださいました。

ご利用者の希望を実現でき、とても素敵な笑顔を見せていただけて職員も温かい気持ちになることができました。

今後もご利用者の「したい」、「やってみたい」を聞きながら、皆様の笑顔が増えるよう取り組んでいきたいと思います。

寄り添う看護

看護師／A

毎日たくさんの方がご自身の健康のため、通所リハビリテーションに通われています。

ご利用者であるN様は、時々愛犬に噛まれてケガをされるため、その処置で関わることが多い方です。

ある時、N様から「ちょっと話を聞いて欲しい。」と、ご相談がありました。

お話を伺ってみると、首元にゴリゴリと違和感があったので受診したら、医師から癌かもしれないから精密検査が必要だと言われ、頭が真っ白になったというのです。

N様は、とても不安な表情をされていました。私に疾患を取り除くことはできませんが、少しでも不安が少なくなるよう、そばで寄り添ってお話を聞かせていただきました。

それから、検査の結果が出るまでの時間、なるべくN様に声がけをして、お話を伺うようにしました。

数日後…。

検査の結果、癌ではないことがわかり、N様はほっとされた様子で、「話を聞いてくれてありがとう。」と、笑顔で教えてくださいました。

まだ、首に腫れが見られるため定期受診が必要ですが、ご利用者の不安が少なくなるよう、これからも寄り添う看護を大切にしていきたいと改めて思いました。



食べたいを叶える

管理栄養士／Y

私たち管理栄養士は、段々と食べることが困難になってきた終末期のご利用者の「あれが食べたい！」の気持ちにお応えして、その方のお好きなものを、食べられる形にしてご用意させていただくことがあります。

果物がお好きなご利用者には果物をミキサーにかけてお出しし、お寿司が食べたいというご利用者には、おかゆをゼリー状にする食品で作ったシャリに、すりつぶしたネタを乗せてお出ししました。

ご希望の食事をご用意させていただいたすべてのご利用者に喜んでいただくことができ、中には涙を流して感謝してくださる方もいらっしゃいました。

なかなか食べることができなくなってしまったご利用者においても、栄養士として「食べたい！」というお気持ちはできるだけ尊重したいと考えています。

ご利用者の思いに応えるため、ご家族も含め、多職種の協力が必要になります。

今後も、多職種で協力し、ご利用者の「食べたい！」を叶えるため、努力していきます。



Nishiyama Smile

2025

イチロー氏がアジア人初の米野球殿堂入り。
ミスタープロ野球の長嶋茂雄さんご逝去。
大の里が初土俵から史上最速で横綱に昇進。
大阪・関西万博が開催され、
各パビリオンや大屋根リングが話題に。
終戦から80年を迎え、
平和への誓いを新たにした年です。

最後まで家で暮らしたい

ケアマネジャー／O

「私は、施設に入る気はありません。私は、頑固で変わり者だからごめんね。」

A様は、奥様と二人暮らしで、奥様と自宅で生活をすることを何よりも大切にしている方でした。

A様は、夏頃から体力が低下し、転ぶことも増えていきました。

「奥様に食事を出す」という毎日の日課が徐々に行えなくなり、別居のご家族やご夫婦の生活を支えてきた専門職は、ご夫婦二人での生活に限界を感じていました。

しかし、A様は最後まで施設に入所することに同意しませんでした。

今後の方針を話し合う場で、「ギリギリまで夫婦二人で過ごしたい。どちらかが欠けた時点で在宅生活を諦めます。」というご夫婦の強い希望が示され、自宅での生活を続けていくことになりました。

その後、医師や薬剤師、看護師や介護士がご家族と協働してご夫婦の支援に取り組みましたが、A様は年末に救急搬送され、そのまま病院で息を引き取りました。

私は、どこまでA様のご意向を尊重できたのかとわだかまりを感じていましたが、ご家族からは「父の望みは叶えられたと思います。」というお言葉を、長い期間担当してきた介護士からは「本当にギリギリまでやりきりましたね。お疲れさまでした。」と労いの言葉をいただきました。

それらの言葉から、私自身が本当に多くの仲間とA様の支援に取り組めたのだと実感できました。

これからもご利用者やご家族の想いを一つでも多く実現できるよう、微力ながら取り組んでいきたいと深く感じた出来事でした。



浜名湖園建物改修工事にて

事務職員／S

浜名湖園では、改修工事による事業所移動に伴い、引っ越し作業が付きものとなっております。

築47年の蓄積の賜物、一日二日では終わりません。

設立当初からあるであろう事務机に始まり、凹んで閉まらないロッカー、電気室に隠れていたレントゲン機器、画家名のない油絵、カモメを模した金属製オブジェ、水銀血圧計、アンティーク調のガラス棚、リモコンのないテレビ、ラジオ体操のカセット、演劇で使用していた小道具、聖子ちゃんカットの職員アルバム、ナショナル製の白熱電球…等が出てきました。

目の前にある昭和平成の数多の産物を見て、「使わなくなったら然るべき時に片づけて」と思いましたが、同時に使っていた当時のご利用者や職員について知り、昔を思い出すいいきっかけになりました。

会計上は0円や備忘価額の1円ですが、思い出はプライスレス。

改修により生まれ変わった浜名湖園。

ここでの生活が、ご利用される方たちにとって素敵な思い出として書き加えられていくことを願っております。

そのためにも引っ越し作業頑張るぞ！



思いに寄り添う

医療相談員／S

西山病院グループに勤めて早1年。まだまだ半人前ですが、今まで携わったご家族の中で特に印象に残っている方がいます。

地域包括支援センターからの紹介で、自宅でご家族が必死に介護をされている方がおり、一度入院の話を聞いてもらえないか、という相談がありました。ご家族から話をお聞きすると、ご本人は慣れ親しんだ自宅が好きで、配偶者と一緒にいたいという思いがある一方で、高齢でほとんど介助が必要な状態でした。配偶者にも認知症があり、ご本人の介護をするのは、ご家族しかいませんでした。相談に来られましたが、やはり自宅で頑張りたいという気持ちが強く、その時は入院に至りませんでした。

その後、食事が摂れなくなり、介助量が多くなるなど、ご家族も限界となり、ご本人も納得の上、当院に入院することになりました。

私は、ご家族が「本人は家が好きだから最後まで家で看てあげたかった。でも、自分ひとりではやっぱり無理で…。」と複雑そうに話された姿がずっと気になり、ご本人やご家族にとって「入院」という決断はよかったのだろうか、としばらく考えていました。

入院後、1ヶ月ほどで亡くなられましたが、最後に挨拶をした際に「本当に入れてよかった。あの時、入れなかったらどうなっていたか…。」とお言葉をいただきました。

偶然にも、仕事以外でちょうどご家族とお会いする機会があり、「いろいろと整理が終わりました。本当によくしてくれました。」と、また感謝の言葉をいただきました。

ご本人、ご家族の思いをすべて汲み取るのは難しいけれど、これからもできる限り寄り添って接していきたいと思う出来事でした。



偶然が重なったレクリエーション

看護師／H&M

4月6日(日)西山ウエルケア4・5階療養棟では、お花見ドライブのレクリエーションを計画していました。しかし、当日は雨模様だったため、ショッピングモールでのお買い物に予定を変更することになりました。

そのことを伝えると、A様は「それなら行かんでいい、他の人を連れて行ってやって」と遠慮がちな反応。何度かお誘いすると、渋々承諾してくださり、一緒に行くことができました。

遠慮がちだったA様も、ドライブの途中で桜を見ることができ、「きれいだね」と表情が明るくなり、会話も弾んでいきました。

ショッピングモールに着くと「この店にしか用はない、家族が働いている」とおっしゃるので、半信半疑でお店を訪ねると、なんとカウンターにご家族の姿が！

外出することは事前にご自宅へ連絡していましたが、お店で働いているご家族には伝わっていなかったため、突然の訪問に驚いた様子でした。A様はご家族と手を握り合って感動の涙を流して喜んでいらっしゃいました。

また、A様が帰りの車内で「気分がスッとした」と何度も呟いていらっしゃったのが印象的でした。

たまたま雨で桜を見に行く予定がお買い物に変更になり、職員としては「少し残念だな」という気持ちでしたが、最後にA様の満足気な表情を見ることができ、「雨で良かったな」と思えたレクリエーションになりました。

